

東京都公立学校情緒障害教育研究会

都情研 入門研修

～目指す方向を見失わないために～
(後編)

令和3年度 企画運営本部

入門研修の内容

1. 「情緒障害」って「都情研」ってなに？
2. 「障害」とは
3. 特別支援教育の目指す方向とは
4. 実態把握と見取り・見立て
5. 行動観察と指導記録、成育歴、諸検査
6. 特別支援教室（通級による指導）の役割
7. 発達障害の理解
8. 指導内容と指導方法
9. 学習指導案とケースレポートの書き方
10. 通級による指導の実際（事例から学ぶ）

～前編を振り返って～

Q.自立活動は

「障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目指す」

★改善とは→できることを増やすこと
克服とは→自己理解すること

Q.「見取り・（見立て）」とは？

★子どもの言動の意味や原因を考える

Q.特別支援教室の役割って？

★リラックスルーム 預かり所 塾 躰の肩代わり役
じゃない！

私の20数年前の悩み？

- ・子どもたちと関わる時間が少ない（2～8時間）
- ・自分がまともに任される仕事がほぼない。
- ・専門性がない。（なのに専門家と言われる）
- ・学校の中の所属感が薄い。
- ・何の仕事しているか、説明できない。
- ・なんだ、あの担任は！⇨あの先生、良い先生！
- ・自分の役割は何だろう？

そんな中で起きる疑問

- ・「この経験は無駄にならないよ！」→やったことないでしょ！
- ・「もう少しで、通級にお世話になるしかないかなって思ってたけど、なんとか無事に3月を迎えられたよ！」→誰のため？
- ・知的障害学級への転学相談を→うちじゃ無理って言うの？
保護者からは・・・
- ・「こんなところに来ることになってしまって（涙）」
- ・「おかげさまで担任の先生が変わって落ち着きましたのでやめようかと思えます」

ん、待て待て！

- ・誰のための教室なの？
- ・目の前のあの子は、
あいかわらずなのだけど？

どうして？なぜ？を大切に！

- 本来の「通級による指導」の在り方？
 - 自分の立ち位置？
 - 必要な情報や悩みの整理！
- ～そんなきっかけになってほしいと思います～

大変な子 ≠ 特別支援？！

- ★家庭環境・養育が不安定な子
 - ★他害がある子
 - ★不登校、保健室登校になると・・・
- ※小学校の学級の荒れとの関連？
 ※多分大変な子がゼロにはならないです。
 ※何もしないよりはで良いのかな・・・。

7 発達障害の理解

- 教師は診断をしてはいけない！
- でも、指導するには「見立て」ができなければいけない！
 ※教育の事は医者や心理にはわからない
- 最近では保護者に確認書の説明しなければなりませんよね・・・

障害がある？障害かも？

- なのに、怒られるってなぜ？
- 社会性の障害、躓きだからなのでしょう！
 - * 理解しにくい！
 - * 他の人に迷惑がかかってしまう！
 - * 本人が困る！

社会性の躓き例（状態像）

- 怒る、キれる。
- 話を聞かない、聞けない？
- 飽きる。長続きしない！
- 待てない。
- 失敗が嫌い！怒る、いじける、固まる。
- 忘れものが多い。
- 興味、関心、内容や気分により取り組みにムラがある。
- 困ったと認めない、助けを求めない。
- 助けを受け入れない（頑固?!)
- 相手の気持ちがわからない。
- 自分の気持ちがわからない。
- 空気が読めない。
- しゃべりすぎ。黙れない。
- 人前で話すのが苦手。話さない。

適応・不適応に注意！

- 適応、不適応は相対関係で変化する。
 - だから色々な意味で在籍学級担任の学級経営はすごく重要！
 - 相談の時点から先を見据えた見立てができますか？
 - ★支援レベル1～3の難しさ
 「もっと早くに来ていれば良かったのに！」
 「不適応を起こしていないならば未だ必要ない？」
- ※必要な指導を必要な時期（年代）に！

インクルーシブ教育の時代

- 本質的な意味での理解を！
- 現在の行政制度の理解を！
- 単なる物理的統合に注意！
※ダンピング（投げ入れ）×
- 当事者目線での考え方

※必要な指導を必要な時期（年代）に！

発達障害の種類

- ◎注意欠陥（如）/多動症（AD/HD）
- ◎学習障害（LD）
- ◎自閉スペクトラム症（ASD）

いずれも、生まれつきの脳の機能障害である。

14

AD/HD（注意欠陥/多動性障害）

- 多動性・衝動性（ついやってしまう！動く）
- 注意の配分・選択の困難。気がそれる。切り替わる。エラー頻発。
- 場に依存しやすい・他律的・欲求の制御難
- 叱責経験一般人の10倍～200倍？
- 嫌悪刺激に鈍感 報償欲求の強さ
- ★感情と行動のコントロールの課題
- ★プランニングの課題
- ★IQレベルにより、予後がかなり違う。

ADHDの子に対して目指すところ！

- ギリギリセーフ！よくやった！
 - 注意をされたらすぐ直そう！
 - 叱らないけど譲らない
 - めんどくさいけどやり直し
 - 「失敗はだれでも必ずあるものです。
大切なのは後始末！」
- ※2次障害の予防！が重要
※薬物療法の効果は大きい！

小6 A君のコメント

- 校長先生
「A君、君はできる子なのに、もったいない！」
- A君
「あのババア意味わかんねえ！
もったいないもったいないって！
俺はいつでも俺のままで生きてるだけだ！」

LD（学習障害）

- 読み書き障害
- 算数障害

全体的な知的レベルに対して考える
知的障害、境界知能では？というケース
ADHD、ASDとの合併
純粹例は非常に少ない。

特に社会的認知の障害

- PDD (HFPPDD)
- HFA
- (高機能) 広範性発達障害
- (高機能) 自閉症
- アスペルガー障害、症候群
- 自閉症圏の子
- 自閉スペクトラム症



★知らないと誤解する。悪影響が大きい

※発達障害の中核と言われ、ADHD、LDの診断や主訴でも、**ASDが見逃されている**ケースが山ほどある。

自閉スペクトラム症 (ASD) って？

★「三つ組」の障害

- ①社会性の問題
- ②コミュニケーションの質的問題
- ③イマジネーションの障害

★その他

多動、感覚異常、睡眠異常、情報の統合の困難、独特な認知による学習障害、同一性保持、保続、シングルフォーカス

★生育歴の聞き取りが大事！

※参考 高機能自閉症・アスペルガー症候群入門
水野薫、内山登紀夫、吉田友子編著 中央法規出版2001年

勉強はできるけど、人の気持ちがわからない？

- * 他者は自分とは異なる考えをもつ存在という認識がない、薄い。
- * 決して悪い心を持っているわけではない

※誤解のないように！

「オレオレ詐欺」は人の心がわかる、悪い心を持った人

目指すのは、ASD児を正常化することではない！
健康なASDの大人になろう！

彼らに多数派の理屈を押し付ける前に、彼らの思考を理解することから始めなければならない

ケース2 小1 B君

- 入学して1週間、彼の来ている服はいつも同じ黒いボロシャツ、しかも何だか擦り切れてボロボロ！母は何だか暗い感じ。家庭の問題があるのでは・・・と疑い、連絡を躊躇していました。

そして6月の個人面談で

先生：「お母さん、あの洋服なんですけど、
ちょっとその・・・」

母：「 ? 」

ケース3 小2 診察室でのC君

Dr：「お母さんは、昨日イオンで、
リンゴといちごとバナナと桃とメロンを
買ってきました。T君はどれが好き？」

T君：「イチゴ！」

Dr：「じゃあ、お父さんにプレゼントするなら？」

T君：「 ? 」

ケース4 あいさつする小6 D君

担任：「D君、いちいち『先生こんにちは！ご苦労様です』」って声かけてきてわけわかんないんですよ。あれどうなのでしょう？」

図工専科：「そうそう。私にもです。」

元担任のY先生：「D君は昔から友達が少ないから大人との関わりを求めているんだよね・・・。」

～後日～

特支担当：「D君、なんであんなに挨拶するの？」

D君：「 ? 」

ケース5 歌を嫌がる小5 E君

音楽専科：「E君なんですけど、歌を歌う時間に気持ち悪くなるから歌わなくて良いか？っていうんですけど・・・。」
 特支担当：「そういうところはあるよね！無理させない方がいいかも」
 音楽専科：「そうですか。はい・・・」

診断に振り回されないで！

- 先生！
うちの子はASDと診断されました。空気が読めないのですが、ここに通えば読めるようになりますか？
- 先生！
うちの子はASDなんです。目を合わせて挨拶をするなんて指導はやめてください！

8 指導内容と指導方法 (ASD児への社会性指導)

- 個別指導、小集団指導
「社会性の指導」が必要な子には、個別指導の場面でもコミュニケーション指導を含む「社会性の指導」の視点が必要。
- 社会性の指導には小集団指導が効果的である。
- 通常の学級での汎化を目指すが、特別支援教室の場が汎化の場でもある。

児童の実態から考えた指導内容例

特別支援教室の指導内容と目標

指導内容	指導目標
生活習慣指導 (掃除活動、食生活指導、生活リズム指導)	生活習慣を整え、社会生活を送るための基礎となる。
社会性指導 (挨拶、目を見て話す、順番を守る)	社会生活を送るための基本的な社会性を身につける。
学習指導 (基礎学力の向上)	学習活動を通じて、基礎学力を向上させる。
職業体験 (社会生活の理解)	社会生活の理解を深め、将来の職業選択に役立つ。
生活技能指導 (調理、洗濯、掃除)	日常生活に必要な生活技能を身につける。
身体運動指導 (体育、ダンス)	身体運動を通じて、健康増進を図る。
芸術指導 (音楽、絵画)	芸術活動を通じて、情操を豊かにする。
ICT指導 (パソコン、タブレット)	ICT機器の活用を通じて、学習意欲を高める。
地域連携 (ボランティア活動)	地域社会との連携を深め、社会貢献意識を高める。
個別指導 (学習支援)	個別の学習ニーズに応じた指導を行う。
小集団指導 (グループワーク)	小集団での活動を通じて、社会性を高める。
大集団指導 (全校集会)	大集団での活動を通じて、社会性を高める。
家庭連携 (保護者との連携)	家庭との連携を深め、指導効果を高める。
関係機関連携 (福祉機関との連携)	関係機関との連携を深め、指導効果を高める。

児童の実態から考えた指導目標

指導内容	指導目標
生活習慣指導	生活習慣を整え、社会生活を送るための基礎となる。
社会性指導	社会生活を送るための基本的な社会性を身につける。
学習指導	学習活動を通じて、基礎学力を向上させる。
職業体験	社会生活の理解を深め、将来の職業選択に役立つ。
生活技能指導	日常生活に必要な生活技能を身につける。
身体運動指導	身体運動を通じて、健康増進を図る。
芸術指導	芸術活動を通じて、情操を豊かにする。
ICT指導	ICT機器の活用を通じて、学習意欲を高める。
地域連携	地域社会との連携を深め、社会貢献意識を高める。
個別指導	個別の学習ニーズに応じた指導を行う。
小集団指導	小集団での活動を通じて、社会性を高める。
大集団指導	大集団での活動を通じて、社会性を高める。
家庭連携	家庭との連携を深め、指導効果を高める。
関係機関連携	関係機関との連携を深め、指導効果を高める。

9 学習指導案とケースレポート

- まず、普通の指導から略案を書くようにしましょう！
- 活動案で、指導案になっていない！
- ねらいは何なの？誰をターゲットに？
- T.Tが効果的になるように！
※準備不足のT1の指導を、T2以下がフォローするという残念なT.Tになっていませんか？
- 特別支援の指導案は、個別のねらいと見取りができる指導案に！

自立活動 運動の時間 ～サーキットトレーニング～

★注意！！

「運動の時間」と言っても、あくまで自立活動！！
複数のねらいが個々の児童に複合的に組み合わさって
授業が設定される。

自立活動 例

- 2-1 心理的な安定→情緒の安定
- 5-1 身体の動き→姿勢と運動・動作の基本技能
- 3-2 人間関係の形成→他者の意図や感情の理解
- 6-1 コミュニケーション→コミュニケーションの
基礎的能力

自立活動 運動の時間 ～サーキットトレーニング～

★注意！！

「運動の時間」と言っても、あくまで自立活動！！
複数のねらいが個々の児童に複合的に組み合わさって
授業が設定される。

「小集団における学習態勢」、「基本的行動様式」、「順番や協力して準備」、「友達とのコミュニケーション」、「得意・不得意の理解」、「行動調整」、「運動機能の向上」
等々・・・

自立活動 運動の時間 ～サーキットトレーニング～

・めあて

「協力してサーキットの準備・片づけをしよう！」

「決められた周数サーキットに取り組もう！」

「思い通りにいかないときでも、まいっかして切り替えよう！」

自立活動 運動の時間 ～サーキットトレーニング～

・体育館までの歩き方の指導
しゃべらない。前の人との距離。道具の持ち方。

・道具の準備の指導

- その1 個々に指示されたものを準備する。
e x 平均台「せ～の！」「待って、一回置かせて」
- その2 みんなで協力して準備する。
e x 誰が何を準備するか相談して決める。
- その3 みんなで協力して準備する
e x 仕事を見つけて動く。

自立活動 運動の時間 ～サーキットトレーニング～

・順番を決める

- e x じゃんけんで勝った順、負けた順
- じゃんけんで勝った人から好きな順
- じゃんけん以外の方法で2分で決めて

<間違えないで！>

A君が一番になれなくて泣いているんだけど、だれか変わってくれる人いるかな？ ありがとう！B君はやさしいね！

ねらいは？ 泣いたら代わってもらえるという誤学習になる！

正解は 気持ちは共感、表現方法等行動修正、切り替えを促す！

ケースレポートを作ろう！

・事例研究の発表者になって、ケースレポートを書きましょう！

・とても勉強になります！

・自分がその子のことを人に伝えるために、紙面にまとめようとする、子どもを理解するために必要なこと、枠組みがとてもわかります。

・ケース検討での先輩からの助言が参考になります。

10通級による指導の実際 (事例から学ぶ)

- 学習態勢の指導 (小集団)
- コミュニケーションの指導 (小集団)
- 感覚過敏に対しての指導

指導時間例 午前4時間指導

- 朝の支度 連絡帳提出、着替え、朝休みを過ごす

★朝の会

1時間目 運動の時間 体育館へ

2時間目 学習態勢の時間

★～中休み～

3時間目 個別学習の時間

4時間目 コミュニケーションの時間

★帰りの会

指導時間例 午後2時間指導

- 給食終了後、掃除を終えて、昼休みの時間より来室
120分指導 (13時20分～15時20分)

★昼の会

1コマ目 運動の時間 体育館へ

2コマ目 学習態勢の時間

3コマ目 コミュニケーションの時間

4コマ目 個別学習の時間

★帰りの会

朝の会 (学習態勢の指導)

- 大人の日直が全体を仕切りつつ、子どもの日直を立てて、朝の挨拶、名前呼び、今日の予定の説明を行う。この時間から指導が始まっている。
- むしろその曜日のグループの雰囲気が決まる。

2時間目 聞く・話すの時間 (学習態勢の時間)

- 例 聞く修行 先生の指示通りに動く。
「名前を呼ばれた人は、はいと返事をして右手を挙げてください。〇〇君」
「名前を呼ばれた人は、小さな声で返事をして左手を挙げてください。△△君」
「まだ名前を呼ばれていない人は、黙って両手を挙げてください。□□さん」
- 例 スピーチ、スピーチに質問

個別学習場面で気をつけていること (枠組みの重要性)

- 教師の枠組みの中で活動すること
(何をやる場所?、誰が決めるの?)
- 意思確認・制止の受け入れ、交渉
「～していい?」「それは無理だな。」「じゃあ、これは?」
- 教師側の援助のタイミング
※仕組みの提示 (教師) → ヘルプの提示 (児童)
→ 援助 (教師) → 援助の受け入れ (児童)

「学習態勢」が基本！！

- SSTとか、コミュニケーションゲームとか、ロールプレイとかいろいろな題材、方法が巷にありますが、あくまでも学習態勢ができてからのことです。
- 実際、指導にならないのではと思います。

4時間目

コミュニケーションの時間

～協力神経衰弱～

- めあて 自分の意見を伝えよう！
相談して決めよう！
相手の気持ちを考えよう！
- 題材「協力神経衰弱」
- やり方 2人組4ペア 計8人のグループ指導
ホワイトボードにマグネットでぶら下げられた計20枚（4×5）10ペアのカードをチームごとに順番にめくり神経衰弱を行う。
2人で「せーの！」の声を合わせてコールする。

コミュニケーションの時間 例 ～協力神経衰弱～

実際の場面では

- 意見を全部言わずに、相手の考えに同意するので
トラブルないA君、これは良いの？
- B君とC君は意見が分かれる。
「たぶん～」と言うB君「絶対！」と主張するC君
そしてB君がゆずり、C君の意見に決定！そしていざコールするが、ハズレ！怒るC君！B君の意見が正解でした。C君怒る前に言うべきことが・・・

感覚過敏への指導

- 運動会のピストルの音が苦手で・・・
- 動画でボリュームをゼロにして、まずは見るところから始めましょう！
- 徐々にボリュームを上げて、少しずつクリア！
- あれ？音は平気かも？
- 僕、急に鳴るのがダメみたい！

みんなで学びましょう！

- 都情研に積極的に参加
 - 他の地域の指導を見学に
 - 研究授業、事例研を！
 - 先輩方を講師に
 - 指導教諭の活用
- ※中学校の先生方
8月20日
課題別研修開催予定！！

特別支援教室の指導内容と目標

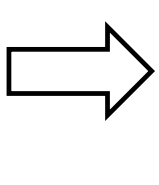
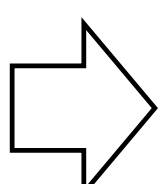
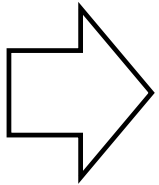
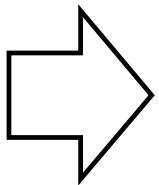
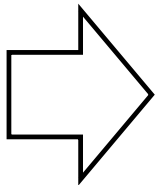
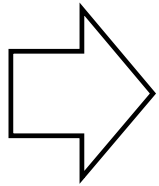
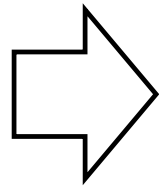
指導項目	児童がかかえる困難	指導の工夫と配慮すべき点	自立活動	主な指導内容（授業場面→学校内→日常生活で と広がりを考えながら）
学習態勢・基本的	①対人認知（距離感、関係の理解）、状況、雰囲気などの把握、役割の理解、ルール理解 ②衝動性のコントロール、プランニング・モニタリングの調整、注意と記憶、注意の配分、保続（切り替え、視点思考の転換）、イマジネーション・同一性保持・評価への感受性 ③シングルフォーカス、シングル（モノ）トラック ④ジョイントアテンション、言語・コミュニケーション	小集団指導 チームアプローチ 環境の構造化 言葉の構造化 視覚の手がかりの使用 肯定的即時評価 具体的な方策の提案	自立活動 2-(1)(2) 6-(5)	□時刻になったら活動をやめて着席する □教師や友達に注目する 注目し続ける □教師の板書や指さしたところに注目する □他者の視線に気付いて同じところを見る □教師や友達の話最後まで聞く □指示に従って行動する □複数の指示を覚えて、それを行う
言語・コミュニケーション	①④心の理論、ジョイントテンション、アイコンタクト、表情、身振り、指差しの理解と使用 状況に合った声の大きさ・高さ 字義通りの理解（文脈からの理解） 語用の意味、会話のキャッチボール、暗黙の了解 ②注意と記憶、選択的注意・社会的注意保続		自立活動 3-(2) 6-(4)(5)	□相手に分かるように、自分の考えを話す □できごとの順番を思い出して話す。報告する □伝えなければ、分からないことに気づく □同じ言葉でも、使う場面が違うと異なる意味合いになることに気付く □比喩、例え、慣用句の意味や使い方が分かる □自分に向けられた視線の意味が分かる □比喩や例え、慣用句の意味や使い方 □状況や文脈から言葉の意味を理解する □相手の話に沿った内容で自分の考えを言える
集団参加・社会的行動	①④状況・雰囲気の把握、集団内での位置、役割の理解 ルールの理解、暗黙の了解、心の理論、ジョイントアテンション、イマジネーション、語用と意味 ②衝動性のコントロール、プランニング・モニタリングの調整、注意と記憶、保続（切り替え、視点思考の転換）、イマジネーション・同一性保持、評価への感受性 ③シングルフォーカス、シングル（モノ）トラック ⑤視覚刺激、聴覚刺激への過敏		自立活動 3-(2)(4) 6-(5)	□予定や時間割が分かる □友達の様子から判断して分かる □集団を意識し、遅れないように行動する □集団から上手に抜ける方法を知る □予定を意識し、自分のやっていたことを切り替えながら集団に参加していく □作業や物事の手順や段取りを考える □やることの優先順位を考える □協力することの意味や方法を知り、やってみようとする □集団内の自分の立場や役割を理解して行動する
運動能力	⑤感覚統合（視覚、触覚、固有覚、前庭覚等） 身体意識…身体像（ボディイメージ） 身体図式（ボディシエマ）ラテラルリティ、正中線交叉、バランス等 身体概念（ボディコンセプト） 微細運動、粗大運動、協応運動、巧緻性 ②注意の振り分け ①状況の把握		自立活動 4-(4) 5-(3)(5)	□モデルを見て同じように体を動かす □見ながら（聞きながら）動く。 □必要なところに力を入れたり、脱力したりする □自分の体の動きや姿勢をイメージする □回転、逆さ、バランスなどを感じる運動をする □見ながら（聞きながら）動作する
認知・概念形成	③シングルフォーカス、シングル（モノ）トラック 空間認知 情報の統合 ①社会的状況の認知 ⑤感覚知覚		自立活動 4-(4)(5)	□見た事柄、読んだ内容を正しく理解し、言葉や文字、絵、図、動作等で再現する □複数の情報を取りまとめて総合的に理解する □全体を見て、どんな部分から成り立っているのかを理解する □物事を推理したり予測したり関連付けたりする □起こったできごとの因果関係に気づく
自己理解・行動調整	①状況・雰囲気の把握 共感及びそれを代償する情報処理 自分の役割の理解 ②衝動性のコントロール プランニング・モニタリングの調整 評価への感受性、保続（切り替え、視点思考の転換）、イマジネーション・同一性保持 ⑥感情のコントロール、メタ認知		自立活動 1-(4) 2-(3) 3-(3)	◎自分の認知や行動の特性を理解し、うまくいく方策や代替えとなる方法を知る □落ち着きがなかったり、衝動的だったり、不注意だったりする自分に気づき、コントロールする方法があることを知る □他者につられて不適切な言動を行ってしまう自分に気づき、行動修正できる □思い通りにならないことへの不平や不満、他者への批判などは、問題解決に至らないことに気づき、視点を変えて考えてみる
将来を見通した基礎学力	⑥自己理解 行動調整 基礎学力		自立活動 2-(3) 4-(5)	◎学年と総体的な発達を考慮して □数や図形をイメージし操作する課題や大きさ、量、長さ、広さなどを測定したり比較したりする課題に取り組む □文章や図の重要なところに着目して理解したり答えたりする課題に取り組む

自己肯定感・有用感の育成、適切な進路決定、社会生活適応、自己実現に向けて

*参考 水野薫編『実践に学ぶ特別支援教育 ASD児を中心とした情緒障害教育の成果と課題、そしてこれからの姿』（本の種出版、2017）

特別支援教室の指導目標一覧（長期目標）

特別支援教室の教育課程第2表「5 主な指導内容」について（参考）



項目	ID	長期目標
基 学 習 的 態 度 ・ 行 動 様 式	T101	個別場面での着席、注視、傾聴、指示に従う態度、行動修正等の学習態勢の確立を図る。
	T102	個別場面での学習の流れに沿って活動したり、待ったりする等、学習の際の基本的行動様式の習得を図る。
	T103	小集団場面での着席、注視、傾聴、指示に従う態度、行動修正等の学習態勢の確立を図る。
	T104	小集団場面で、学習の流れに沿って活動したり、順番を待ったりする等、友達と共に学習する際の基本的行動様式の習得を図る。
	T105	様々な場面での学習活動において、着席、注視、傾聴、指示に従う態度、行動修正等の学習態勢の確立を図る。
	T106	様々な場面での学習態勢の確立を図ると共に、進んで学習活動に参加しようとする意欲の向上を図る。
	T107	日常生活における衣服の着脱や持ち物管理等の身辺処理、生活リズムや衛生に関する知識や技能の習得を図る。
	T108	場に応じた服装や身だしなみ、振る舞い等を知り、自ら整えたり気をつけたりする態度を養う。
	T109	一日の流れを予定表で確認したり、時計を見ながら準備したり、少し先を見通して行動する力を高める。
言 語 ・ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン	T201	理解語彙の拡大を図り、適切に使用できるようにし、簡単な日常会話の表現力向上を図る。
	T202	日常会話でよく使われる比喩や例え、慣用表現等の意味を理解し、使えるようにする。
	T203	簡単な指示や質問を理解し、指示通り行動したり、質問に答えたりできるようにする。
	T204	名前を呼ばれたら返事をし、簡単な指示や説明を最後まで聞いてから活動できるようにする。
	T205	名前を呼ばれたら返事をし、指示や説明を聞いて理解したり、質問して確かめたりできるようにする。
	T206	相手の名前を呼んで話しかけ、自分の行動を報告したり、質問に答えたりできるようにする。
	T207	相手の言葉を正確に聞き取って理解したり、自分の意思を適切に伝えたりする力を高める。
	T208	相手や状況に応じて言葉を選んで話したり、相槌を打ちながら聞いたりして、相手を意識しながら言葉のやり取りができるようにする。
	T209	自他の感情に気づかせ、相手の気持ちを考えようとする態度を養う。
	T210	相手の様子に注目し、身振りや表情等の非言語的な情報を読み取りながら、言葉の表現を工夫して伝えたり答えたりできるようにする。
	T211	相手の視線の先や自分に向けられた視線に気づき、相手の意図や感情を想像しながら会話することができる。
	T212	相手に話しかけるタイミングや言葉遣いを考え、状況に応じて適切に表現できるようにする。
	T213	相手の気持ちや意図を理解しようとする態度を養い、表現を工夫して説明したり、相手の理解を確認したりできるようにする。
	集 団 参 加 ・ 社 会 性	T301
T302		先生や友達の名前を覚え、名前を呼んで話しかけたり友達と一緒に活動したりすることができるようにする。
T303		先生や友達の活動に関心をもち、質問して理解しようとしたり真似してやってみようとしたりすることができるようにする。
T304		個別場面で学習する際に、簡単な決まりやルールを守って活動することができるようにする。
T305		集団場面で学習する際の決まりやルールを理解し、それらを守って活動することができるようにする。
T306		掲示物や表示、時計等から情報を読み取って、一日の流れや学習予定を理解して活動できるようにする。
T307		集団で学習する際の作業手順や優先順位等が分かり、予定を意識しながら活動できるようにする。
T308		友達と協力することの意味や方法が分かり、役割分担等をしながグループ活動ができるようにする。
T309		友達と協力することの意味や方法が分かり、共通の目標に向かって活動することができるようにする。
T310		先生や友達の様子を見ながら判断して行動を切り替えることができるようにする。
T311		先生や友達の真似をして学びとろうとしたり、課題解決を図ろうとしたりすることができるようにする。
T312		自分の言動や役割が、他の人や友達に及ぼす影響を知り、自分がどう見られているのか想像することができるようにする。
T313		少し先の見通しを考えながら、先生や友達に相談し、自分の行動を決めることができるようにする。
T314		状況や場面に応じた望ましい社会的スキルを習得させ、社会性の向上を図る。
運 動 能 力	T401	身体部位の名称を知るとともに、運動・動作を通し、身体像や身体図式を高める。
	T402	全身を使った運動を通し、身体意識を養うと共に、基礎的運動能力の向上を図る。
	T403	粗大運動や微細運動を通し、適切な身体像の獲得を図る。
	T404	様々な運動・操作を通し身体図式の獲得をさせ、上手に体を動かす能力や姿勢を維持する能力の向上を図る。
	T405	全身を使った運動を通し、動作模倣能力の向上を図る。
	T406	全身を使った運動を通し、協応動作や身体の動きを制御する力を高める。
	T407	指先を使った作業を通し、手指の巧緻性を高める。
	T408	指先を使った作業を通し、目と手の協応を高める。
	T409	指先を使った作業を通し、微細運動機能を高めると共に、道具の使用法の習得を図る。
認 知 ・ 概 念 形 成	T501	興味・関心に応じた課題を工夫し、認知能力全般の発達促進を図る。
	T502	興味・関心に応じた課題を工夫し、認知発達の偏りの改善を図る。
	T503	時間や空間、因果関係等の基礎概念が適切に理解できるようにする。
	T504	視覚情報を適切に理解し、文字や図形、動作等を正しく書き写したり再現したりできるようにする。
	T505	聴覚情報を適切に理解し、曲やリズム、歌や言葉等を正しく再現できるようにする。
	T506	様々な情報の中から必要な情報を選択したり、物事の優先順位を考えたりできるようにする。
	T507	既習の知識を活かしたり体験したことと結びつけたりして、先を見通しながら活動できるようにする。
	T508	認知発達の偏りに応じた課題に取り組みせ、認知能力の調和的発達を促す。
	T509	認知発達の偏りを補うための課題に取り組みせ、認知能力の調和的発達促進を図る。
	T510	認知発達の偏りに応じた支援の仕方を工夫し、学力のアンバランスの改善を図る。
	T511	認知特性に応じた学習方法の習得させ、学習意欲の向上を図る。
	T512	認知特性に応じた学習方法を習得させると共に、知識、技能等を日常生活で生かせるようにする。
自 己 理 解 ・ 行 動 調 整	T601	様々な活動を通して自分の得意なこと気づき、意欲的に取り組むことができるようにする。
	T602	様々な活動を通して自分の得意・不得意に気づき、うまくいくための手立てを取ろうとすることができるようにする。
	T603	自分の得意・不得意を理解し、得意な部分を伸ばし、苦手な部分の改善、克服しようとする態度を養う。
	T604	友達と自分の得意・不得意の違いに気づき、自己理解を深めると共に、工夫して生活しようとする態度を養う。
	T605	パニックや癇癪を起こしたときのクールダウンの仕方を知り、やってみようとする。
	T606	うまくいかないときに一旦活動を止めたり、別なやり方に切り替えたりできるようにする。
	T607	思い通りにいかないときに不平、不満を言うよりも、気持ちを切り替えて行動を自己コントロールできるようにする。
	T608	場に応じた注意集中の仕方を知り、学習活動の中でやってみようとする。
	T609	自分なりの気持ちの切り替え方を見つけ、場に応じて適切に行動をコントロールしようとする態度を養う。
	T610	先生や友達との安定した人間関係を味わせ、見通しをもち、落ち着いた学習活動ができるようにする。
	T611	小集団場面での成功体験を増やし、友達や先生からの賞賛を楽しみにしながら活動できるようにする。
	T612	学習活動の結果のみならず途中経過や努力を丁寧に評価することにより、自尊感情を高めるとともに学習意欲の向上を図る。
か し 得 た 基 礎 学 通	T701	認知発達の偏りに応じた支援の仕方を工夫し、基礎学力の向上を図る。
	T702	認知特性に応じた学習方法を探り、基礎学力の向上を図ると共に、学習意欲の向上を図る。
	T703	日常生活とのつながりや実際場面と結びつきや発達段階を考慮しながら基礎学力の向上を図る。
	T704	ハサミや定規等の学習用具の使用の仕方の習得を図るとともに、生活場面と結びつけながら基礎学力の向上を図る。

*児童の実態に応じて、次の9項目のうち、3項目を選定して記述する。

ID	主な指導内容
SN_01	注視、傾聴、着席、指示理解等、学習態勢の確立に関する内容
SN_02	活動への取り組み方や持ち物管理等の基本的行動様式に関する内容
SN_03	意思の伝達や聞き取り、対人理解等の言語・コミュニケーションに関する内容
SN_04	集団への意識や集団参加、社会的行動に関する内容
SN_05	感覚統合やボディイメージを高める等、粗大運動に関する内容
SN_06	協応運動や手指の巧緻性を高めるための内容
SN_07	認知や概念形成に関する内容
SN_08	自己理解や行動調整に関する内容
SN_09	実態に応じた学習方法に関する内容